

育心拓夢

愛媛県総合教育センター所報 No.154
(平成29年3月6日発行)
<http://www.esnet.ed.jp/center/>
〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地
TEL 089-963-3111(代) FAX 089-963-3146

- 相談支援部長挨拶 ……1
- 調査・研究発表会について ……1
- 調査・研究発表会 発表の概要 ……2・3

- 調査・研究発表会参加者アンケート ……4
- 平成29年度研修講座の紹介 ……4



「アクティブ・ラーニング に向けて」

相談支援部長 芳之内 亮

去年の暮れ、中央教育審議会が文部科学大臣に次期学習指導要領に関する答申をしました。これにより、年度内に次期学習指導要領が文部科学大臣から公示されることとなります。これまでと同様に「生きる力」を身に付けさせることが求められています。また、カリキュラム・マネジメントなど横文字が乱立する中で、何といても目玉はアクティブ・ラーニングです。その特徴は次の3点「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に要約されます。「何を学ぶのか（コンテンツ）」から「どのように学び、どのような汎用力（コンピテンシー）を身に付けるのか」が問われるようになります。既にこのアクティブ・ラーニングを中心に据えた実践研究報告や研究会も行われています。膝を付き合わせてグループを作り、その中で意見を出し合ったり、まとめたりし、それを発表します。確かに児童生徒が生き生きと活動している様子を

見ると、その効果は計り知れないものと思います。

一方で、自分の意見を上手に表現できない、人の意見を十分に理解できないなどグループ活動が苦手な児童生徒もいると思います。協働的な活動を行うからには、これまで以上に児童生徒一人一人に対する目配り、気配りが必要となります。また、昨年の4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）も施行され、公立学校においては合理的配慮の提供が義務化されることとなりました。障がいのある幼児児童生徒に対して、合理的配慮を踏まえた教育活動の展開が重要となります。今後アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業が増えてくる中で、困難を抱える児童生徒に対してどのように対応していけばいいのか、課題も少なくありません。新しい教育手法に目を奪われ、本来あるべき児童生徒の生きる力を伸ばせなければ本末転倒です。

来年度も「愛媛の子どもたちのために」を合い言葉に、本センターでは四つの事業を計画しています。アクティブ・ラーニングに関する研修講座も充実させておりますので、御参加いただければ幸いです。



愛媛の子どもたちのために

愛媛県イメージアップキャラクターみきゃん

調査・研究発表会について

平成29年2月10日に、幼稚園、小学校、中学校、県立学校、関係機関等から197名の参加者を迎えて、本センターの調査・研究発表会を開催しました。研究主題「輝く愛顔あふれる学校教育の総合的な支援」の下、基調提案、研究発表、事業説明、講演を行いました。基調提案で示した「学びの工夫」「教師力・学校力の向上」「喫緊の課題の解決」の研究の柱に沿って、5本の研究発表を行いました。また、長期研修生2名と短期研修生3名が発表を行い、全部で10本の研究発表を行いました（詳細は次ページ以降に掲載）。その後、東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構長の白水始先生による「深い学びを実現

するアクティブ・ラーニング」と題した講演を行いました。アクティブ・ラーニングの基本的な考え方や、協調学習に基づく具体的な授業実践例に



白水 始 教授

ついて講演いただき、教員自身が指導方法を不断に見直し、改善していくことの重要性について、深く考えることのできる時間となりました。

調査・研究発表会に参加いただいた先生方の声を生かし、本センターの各事業が充実するよう、一層の改善を図っていきたく思います。

企画開発室・教科教育室（発表1）

教員自らが主体的に資質・能力を高めていく研修の在り方に関する研究

—学校における「教師力自己評価票」の活用を通して—

平成26年度からの2年間、初任者研修及び2年目フォローアップ研修の受講者を対象に、自らが主体的に資質・能力を高めていくためのツールとして、「教師力自己評価票」を開発・試行してきました。3年目となる本年度は、教職経験3年目以降の教員を対象に、自己評価、目標設定、実践、振り返りという「教師力向上サイクル」を学校の中に取り入れて活用するための「教師力自己評価票」の開発に取り組みました。本年度から試行されている目標管理制度に合わせ、開発した「教師力自己評価票」を、協力学校の目標設定や振り返りの場面で活用しました。各校のニーズに合わせて各シートにアレンジを加えたり、各場面で協議を取り入れたりすることで、自己の課題解決に向けた手立てが焦点化され、教員としての資質・能力を高める取組につながることができました。また、管理職や同僚とのコミュニケーションが活性化し、相互理解にも成果が見られました。

本年度開発した「教師力自己評価票」はホームページに掲載しますので、ぜひ、学校で御活用ください。

教育相談室（発表4）

教育相談における教職員の能力向上に関する研究

学校教育における様々な教育活動の中で、とりわけ生徒指導上の諸問題への対応は、最優先の課題と言えます。教育相談室の相談業務の経験から考えられることは、その諸問題に対応するための手段の一つとして教育相談を適切に行うことが、未然防止や解決の糸口につながるということです。そこで、教職員の教育相談への意識を高め、能力の向上を図ることを目的として、本研究を行うこととしました。

本研究は、2年計画で行います。本年度は、アンケート調査で把握した、教育相談に関する教職員のニーズを基にして、「プレゼンテーション資料」「ハンドブック資料」「事例研修資料」の三つの研修資料を作成し、更に協力学校の意見も取り入れて改善を行いました。

来年度は、協力学校の校内研修で三つの研修資料を活用した実践を行った後、アンケート調査を実施して研修の効果を検証し、より役に立つ研修資料に修正したいと考えています。また、本センターの研修やホームページへの掲載等を通して、各学校での活用の機会が増えるように努めていきたいと考えています。

教科教育室（発表2）

学習指導の改善を図るための支援の在り方に関する研究

—「学びのサポートシート」の作成を通して—

平成26年度から3年間研究に取り組み、1年次は、ブックレット「分かる 考える 伸びる授業づくりの基礎・基本」を開発しました。2年次は、「授業づくりに関する資料」を作成し、授業づくりにおいてブックレットを活用するポイントを示しました。

本年度は、「授業は児童生徒と教員が共につくるものである」との考えの下、児童生徒の学びを支援するため、「授業の受け方」「学習習慣」と、理科の学習をスムーズに行う「観察・実験の手順」の三つのサポートシートを作成しました。「授業の受け方」「学習習慣」については、各学校の実態や児童生徒の発達段階、学校種等に応じてアレンジを加えて活用できるよう、補助資料も作成しました。

今後、研修等で、ブックレットとともに学びのサポートシートを活用し、学習指導の改善に向けた支援を行っていききたいと考えています。

情報教育室（発表3）

学校ホームページの構築支援

—XOOPSからNetCommonsへの移行—

本センターで提供している学校ホームページ作成のためのCMSであるXOOPSをNetCommonsに切り替えるに当たり、NetCommonsを利用した学校ホームページ構築研修を来年度実施します。

そこで、本年度は、NetCommonsの特徴を研究し、学校ホームページ用モデルサイト及び研修テキストを作成して、モデル校を対象にした学校ホームページ構築研修を行いました。構築研修会後には、各校においてNetCommonsによる学校ホームページの運用に取り組んでいただきました。

構築研修会や各校でのホームページ運用において、参加者から貴重な意見をいただき、来年度の学校ホームページ構築研修を行う上での改善点が見えてきました。今後は、これらの意見を生かし、研修テキストの見直しや学校からの要望に応える情報提供の在り方を検討して、来年度の学校ホームページ構築研修をよりよいものにしていききたいと考えています。

平成28年度長期研修生（発表6-1・2）

地理的な見方や考え方を育むための指導の工夫

—動態地誌的な学習と効果的なICTの活用を通して—

長期研修生 高須賀 仁

本研究では、動態地誌的な学習を工夫し、効果的にICTを活用することを通して、生徒の地理的な見方や考え方を育むことを目的としました。

タブレット端末を活用し、地理的な見方や考え方の観点を示して課題追究させたり、意図的に話し合い活動の場を設定して、根拠を示しながら話し合わせたりすることで、地域的特色を捉え、地理的な見方や考え方の基礎を育むことができました。

心身ともに健康的な生活習慣の確立を目指した指導の工夫

—睡眠習慣の改善を通して—

長期研修生 伊井 さつき

望ましい睡眠習慣を身に付けさせるために、睡眠に関する教育、睡眠の調査と改善、個別指導、家庭への啓発の四つの取組を実践しました。

生徒は睡眠の意義を理解し、睡眠習慣を見直すことができました。また、家庭への啓発を図ったことで、睡眠習慣の改善に向けて意欲的に取り組む家庭が増えました。

平成28年度調査・研究発表会 発表の概要

〔研究主題〕 輝く愛顔（えがお）あふれる学校教育の総合的な支援



特別支援教育室（発表5）

合理的配慮についての校内研修の支援に関する研究

—研修資料の作成・活用を通して—

平成28年4月に、「障害者差別解消法」が施行され、公立学校においては、合理的配慮の提供が法令上義務化されました。学校では、これまでも障がいのある幼児児童生徒への配慮は行われていましたが、合理的配慮は新しい概念であるため、合理的配慮について、全ての教職員が正しく理解する必要があります。そこで、校内研修で活用できる資料として、合理的配慮を提供する手順や全体像をつかむための「ガイドシート」と講義や演習で使用できる「実践資料」を作成しました（実践資料は、合理的配慮の理論等を学ぶための講義資料<講義パッケージ>と合理的配慮を考えるための演習資料<演習パッケージ>です。）。その後、研究員に意見聴取を行い、学校現場において活用できることを確認しました。この結果や研究員の意見を受け、さらに資料を再考しました。

今後、ガイドシートなどの研修資料（試案）を本センターのホームページに掲載する予定ですので、ぜひ、御活用ください。

平成27年度短期研修生（発表7-1~3）

土壌動物分類に関する簡素化の試み

—画像や動画を用いた分類検索システムの作製と授業での活用—

三島高等学校 城 隆文

土壌動物をからだの構造の違いで簡単に分類でき、画像や動画を閲覧できるパソコン検索システムを作製しました。実験ノートに紹介されている検索円盤図と併用した生徒実験では、分類が簡素化・効率化されると同時に、生徒の興味・関心が高まり、生物多様性に対する理解につながることができました。

音波とホイヘンスの原理

吉田高等学校 黒江 崇宏

屈折現象が速度の違いで起こることを、手軽に入手できる材料や既知の装置を活用した実験で示すことでホイヘンスの原理の理解を深める教材を開発できました。また、音波と水面波のレンズを作製し、その効果を検証することで、音波と水面波のどちらにも、レンズによる収束及び発散を確認することができました。

ポリエチレンテレフタレート(PET)の分解実験の教材化

—回収率・反応時間の改善と生成物の同定法の研究—

東予高等学校 山能 研司

身近な高分子化合物のポリエチレンテレフタレート(PET)を、水酸化ナトリウム水溶液で加水分解する実験について研究しました。ペットボトルを、綿あめを作る要領で繊維状にし、加水分解すると、テレフタル酸の回収率の向上と時間短縮に効果がありました。また、得られたテレフタル酸を昇華法で分離し、逆滴定することによって、2価の酸であることを確認しました。

本センター研究の成果について

本センターで行っている研究事業の成果を広く活用していただけるよう、研究成果物をホームページに掲載しております。子どもたちの指導に役立つ資料や、校内研修等で使える資料等をダウンロードすることができますので、ぜひ、御活用ください。

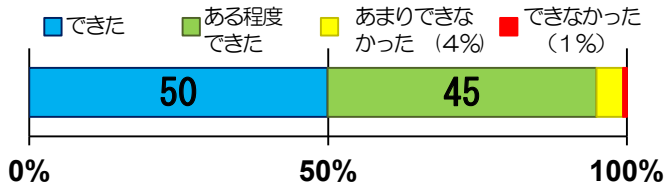
ホームページのアドレス
<http://www.esnet.ed.jp/center/>



調査・研究発表会参加者アンケート

今年度の調査・研究発表会に参加した先生方を対象としたアンケート結果の一部を紹介します。

Q 今年度の調査・研究発表会の発表では、有益な情報を得ることができましたか。



【研究発表について】

- 本校の初任者が研修の所感文で評価シートが役に立ったと書いていて、そのことについて知ることができました。各学校にも広めて活用していくと教師力も向上するのではないかと思います。（発表1）
- センターが、全ての校種を支援している強みを生かした研究であったと思います。教科を越えた学習指導の基本的な理念を教職員が共有できるよう、今後も資料提供をお願いします。（発表2）
- 授業にスマートフォンを活用する学校が増加する中で、NetCommonsの運用は有意義なものと感じ

ます。手軽に情報を発信できることで、地域からの信頼度も高まると思います。（発表3）

- 教育相談は「できている」と思っている、自分自身がそう思っているだけかもしれません。やはり研修をきちんと受けることが必要だと思いました。（発表4）
- 全ての教職員にとって参考になるガイドシート等を示していただき、とても分かりやすかったと思います。今後活用したいと思います。（発表5）
- 動態地誌的な学習の方法が参考になりました。小学校社会科でも様々な単元で取り入れることができると思います。（発表6-1）
- 学校の指導だけでは、改善にまで至りにくい生活習慣の確立を、「睡眠の大切さ」から進めていく点分かりやすかったです。（発表6-2）
- 中学校の教員が高等学校の内容を意識して授業をすることは大切であると思うので、今後も学ぶ姿勢を大切にしたいと思います。（発表7）

【講演について】

- 具体的な事例を挙げてアクティブ・ラーニングと深い学びの実現との関わりを話していただき、とても分かりやすかったです。学び合いや生徒が深く考える問い掛けなど、様々な手法を取り入れた授業を考えていきたいです。

平成29年度研修講座の紹介

課題別研修の新規講座の紹介

課題別研修は、教育課題への対応と職務実践力の向上を図る希望研修で、平成29年度は7分野52講座を実施します。講座を企画・立案するに当たっては、平成28年度に県内の学校・園に協力いただいた、研修に関するアンケートの結果等も踏まえ、それぞれの講座を見直し、改編を図りました。その中でも新設した、特色ある講座の内容を幾つか御紹介します。

【小中・AL】【県立・AL】アクティブ・ラーニングの視点からの学びの改善

「アクティブ・ラーニングって何?」「どのようにすれば主体的・対話的で深い学びが実現するの?」といった疑問を解消し、新たな学びの改善につなげる、新規の講座です。

【小中・道徳】基礎から学ぶ楽しい道徳の授業づくり

道徳の教科化を目前に控える中、基礎から道徳の授業づくりを学びたい方のための新設（親切）講座です。クラス全員が「考え、議論する」、学びがいのある道徳授業を一緒につくっていきませんか。

【主権者教育】主権者として求められる力を育む指導の在り方

18歳への選挙権年齢の引下げにより、小・中学校からの体系的な主権者教育の充実を図ることが求められています。主権者として求められる力の育成に向けて、今後の主権者教育の在り方を考える講座です。

詳しくは、3月に各学校に送付します「研修のしおり」を御覧ください！

交通安全推進メールマガジンの配信について

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指して、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。



所報「育心拓夢（いくしんたくむ）」について

この言葉は本センターが現在の地に移転した昭和57年頃、当時の所員が作った言葉で、敷地内にある石碑に刻まれています。「総合教育センターでは、子どもたちが確かな学力を身に付け、豊かな『心を育む』こと、また、自らの力で未来への『夢を拓く』ことができるように学校支援を行う」という強い思いが込められています。